

ホイール取付型 IRI による測定報告

第52号発行ライラックミニ情報では、ホイール取付型 IRI の導入目的や測定技術について紹介しました。前回の測定では、時速 80km の走行において一部測定データが取れていない箇所やホイール取付け軸からの突出量 (170mm) が大きいなど課題がありました。そこで、今回は、測定機構部の改善及び突出量 100mm 以下にして再測定(9/29)を行いました。

測定区間は、道東自動車道夕張 IC から追分町 IC 間の上下線で行い、中央研究所が 7 月に実施した路面性状測定車での IRI 値の 100m ピッチで比較しました。

測定結果は、相関も取れているので、十分活用できるものと評価できます。

今後、本簡易型 IRI 計測装置により、11 月 18 日に開通する道央自動車道国縫～八雲間の測定を予定しています。



本線での測定状況



後輪への測定機取付状況



後部側からみた取付け状況



測定輪の取付け状況拡大

